

		自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善策
重点課題	担当部・課	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
地域とともにある学校づくり	中学部	(全校レベル) I) 地域交流及び地域貢献活動の展開 II) 地域と連携した教育活動の推進と理解啓発 <下位組織レベル> ① 地域と連携した教育活動を教育課程に位置づけて行う	評価指標 ① 学部内のアンケートにおいて地域と連携した教育活動が教育課程に位置づけられたと回答した教員が80%以上となる。 活動計画 ①-1 地域の事業所と連携した教育活動を2カ所と行う。 ①-2 地域との学校間交流を2校、地域人材を活用した交流を1件以上行う。 ①-3 学校ホームページに活動報告を年間10回以上行う。 ①-4 年度末に教員アンケートを実施し、達成度の確認と次年度への課題と改善策を検討する。	評価指標の達成度 ① 年度当初の計画に基づいて活動を行った。教育課程に位置づけられたと回答した教員が80%以上であった。 活動計画の実施状況 ①-1 地域の就労継続A型、B型事業所と連携した活動を2件行った。学習グループを編成し、地域貢献活動にも参加できた。 ①-2 学校間交流を2校、地域人材を活用した交流を2件行った。 ①-3 交流に関するすべての活動報告を行った。 ①-4 学部会にて達成度を確認し、次年度の課題と改善点について協議した。	総合評価 (評定) A (所見) ① 事前・事後学習も含めて教育課程に位置づけて適切に実施することができた。新たに地域人材を活用した取り組みを進めることができた。HPや地域人材を活用して情報は発信できた。	・ 中学部段階から現場で就労体験ができることはよい取り組みである。	① 徳島県教育委員会の事業と関連付けて、今年度程度の実践を行う。 ② 各活動毎に生徒アンケートを実施し、次回以降の活動に反映させる。
	図書情報課	(全校レベル) I) 地域交流及び地域貢献活動の展開 II) 地域と連携した教育活動の推進と理解啓発 <下位組織レベル> ① 保護者、地域等に対して分かりやすいホームページを構築し、学校の取組や児童生徒活動内容等の情報発信を活性化させ、開かれた学校作りを推進する。	評価指標 ① 各学部のページを12回以上、各課のページを年間2回以上更新する。 ② 年間閲覧数15000回を超える。 活動計画 ① 各学部、各課の発信内容と担当を明確にするともに、学部会や課会、運営委員会で随時周知、確認、依頼を行う。 ②-1 図書情報課員にホームページ担当を設置し、月ごとの各学部・各課等の更新回数やホームページの閲覧数を把握する。また、QRコードなどを利用し、更新情報を保護者等に担任等から連絡するように依頼する。 ②-2 2月に保護者宛にホームページの閲覧や在り方についてFormsでアンケートをとり、意見を基に次年度のホームページの運用に生かす。	評価指標の達成度 ① 各学部および各課において1部1課目標に届かなかったが、2部7課においては目標を達成することができた。 ② 2月12日現在で4月初めからの閲覧回数が19304回となっているので目標を達成することができた。 活動計画の実施状況 ① 定期的に周知・啓発・依頼を行うことができた。 ②-1 担当者が責任を持って更新回数および閲覧数の集計を行った。また、一部の保護者文書において、QRコードを用いた文書を作成し配付することができた。 ②-2 2月中に保護者からの意見を収集し、3月中に来年度へのホームページの在り方を検討する予定である。	総合評価 (評定) A (所見) 学部会や運営委員会で啓発を定期的にやってきて、各課・各部の協力の下、継続的に児童生徒の学習活動の様子や教職員等の活動など学校に関する多岐にわたる情報発信を行うことができた。	・ PTAとして、ホームページを更新できていない。 ・ PTAタイムズを、ホームページに掲載してはどうか。 ・ PTAの役員を敬遠される方が多い。ホームページで、PTAの活動や役員の役割が分ければ、興味を持ってもらうきっかけになり、ホームページの閲覧数も増えるかもしれない。PTA活動もするのであれば、楽しく前向きにしていければよい。	② 今年度、保護者からはアンケートをとっているが、地域の人やなどより多くの方がどう思っている、より良いホームページにするための意見を収集できていない。作品展などでホームページ自体に意見を収集できるようなURLを置くなどしてより多くの意見を収集していきたいと思う。
	特別支援教育課	(全校レベル) I) 地域交流及び地域貢献活動の展開 II) 地域と連携した教育活動の推進と理解啓発 <下位組織レベル> ① 特別支援教育巡回相談員活動等を通して、地域のニーズに対応したセンター的機能を発揮し、地域とともにある学校づくりを推進する。 ② 特別支援教育の理解と推進のための研修を実施し、知識・理解を深める。	評価指標 ①-1 特別支援教育巡回相談員活動において、地域（主に阿南市内）からの依頼に対して計画的に対応する。 ①-2 阿南市特別支援連携協議会に年間3回以上参加し、地域との連携を深める。 ② 地域の保育士や教員並びに県内の特別支援学校の教員対象に特別支援教育に関する公開研修会を実施する。 活動計画 ①-1 年度当初に巡回相談員による広報活動において、地域に対して本校のセンター的機能の周知を図る。 ①-2 阿南市特別支援教育連携協議会開催時に、校内で授業等の調整を行い、巡回相談員が参加できるように対応する。 ② 公開研修会の実施にあたり、案内チラシの配付及び本校ホームページにおいて広報を積極的に行う。	評価指標の達成度 ①-1 主に阿南市の保育所、幼稚園、小学校、中学校からの依頼に対して、週2回の出張を計画した。4月当初担任外だった相談員が担任になってしまったため、校内の行事等を考慮しながらの対応になった。 ①-2 2年度初めと年度終わりのワーキンググループでの会議に参加した。また8月の阿南市特別支援連携協議会の研修会に参加した。 ② 香川大学教育学部特別支援教育領域、坂井聡先生を講師として「障害があるということはどういうことなのか」のテーマで公開研修会を実施した。対面と校内リモートで実施した。 活動計画の実施状況 ①-1 市役所の各種担当部署、保健センター等関係機関や幼稚園園長会、保育所主任会、小学校・中学校教育研究会に参加し本校のセンター的機能の周知を図った。 ①-2 阿南市特別支援教育連携協議会開催時、毎回2名の相談員が参加することができた。 ③ 6月下旬から案内文書配付するとともに本校ホームページやソーシャルリにて広報を行った。校外から保育所から高等学校まで幅広い教員の参加があった。	総合評価 (評定) B (所見) 「特別支援教育地域まるごと専門性向上事業」として香川大学教育学部特別支援教育領域、坂井聡先生の公開研修会を実施した。研修内容について参加者全員が、今後の指導に「生かすことができる」又は「部分的に生かすことができる」との返答だった。 巡回相談では、相談依頼の要望は依然として多い状況が続いている。しかし本年度は途中で相談員が担任になったことで依頼を断るケースもあった。また今年度も引き続き交流及び共同学習における事前学習のグェスティーチャーとして本校相談員を地域の小学校で研修を行った。地域における研修での講師や阿南市特別支援教育連携協議会への参加についても行った。	公開研修会については、「リモートで参加した方から「対面できなかった」との意見があったので、次年度は体育館において対面で研修会が実施できるよう計画していきたい。また巡回相談員については、年度途中で相談員が担任に変更になったことで対応に非常に苦慮した。次年度はこのようなことがおきかないよう人事配置を希望したい。	

* 「評定」の基準 A: 十分達成できた B: 概ね達成できた C: 達成できなかった